

## 検討対象物質の用途一覧

物質名	用途	生産量等	分類	管理濃度 前回検討状況	産衛学会	ACGIH
酸化プロピレン	プロピレングリコール、プロピレンハロヒドリン、イソプロパノールアミン、オキシエステル類、オキシエーテル類、アリルアルコール、プロピオンアルデヒド、アセトン、プロピレンカーボネート、顔料、医薬品の中間体、殺菌剤の原料（14705の化学商品（2005年）） プロピレンオキシドは燻蒸剤として、またウレタンフォーム、プロピレングリコール、プロピレングリコールエーテル、界面活性剤、洗剤の製造で利用され、特殊タピオカでんぷんや合成潤滑剤にも使われる。また、滅菌剤や消毒薬、および電子顕微鏡の試料調製で溶媒として利用される。	生産量=426千トン 輸入量=3,155千トン（14705の化学商品（2005年））	①	未設定	設定なし	2ppm 2004年
ジメチルヒドラジン	合成繊維・樹脂安定剤、医薬・農薬原料、ミサイル推進剤、界面活性剤反応溶剤（脱離反応、精製溶剤、樹脂溶剤、塗料剥離剤、医薬品関係（難溶化合物溶剤）（14705の化学商品（2005年）） ジェット燃料およびロケット燃料の成分、酸性ガスの吸収剤、植物成長調整剤として用いられ、写真や化学合成に用いられる。（ACGIH1996年）	生産量=200トン（14705の化学商品（2005年））	①	未設定	設定なし	0.01ppm 2004年

注：生産量については、平成15年の値。

資料出所：「用途」については、中央労働災害防止協会「2000-2001 化学物質の危険・有害便覧」（2002年）

「生産量等」については、化学工業日報社「14705の化学商品」（2005年）

- ①は日本産業衛生学会又は米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が許容濃度等を勧告している物質の内、管理濃度を設定していない物質。  
②は日本産業衛生学会又は米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が許容濃度等を勧告している物質の内、日本産業衛生学会又は米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が許容濃度等の値と比較して管理濃度の値が高い物質。  
③は日本産業衛生学会又は米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が許容濃度等を勧告している物質の内、日本産業衛生学会及び米国産業衛生専門家会議（ACGIH）が許容濃度等の値と比較して管理濃度の値が低い物質。